



大阪公立大学共同出版会

No.39

NEWSLETTER

ニュースレター

Osaka Municipal Universities Press (OMUP)

目次

- ・第14回 NPO 法人大阪公立大学共同出版会総会報告 1
- ・常務理事就任のご挨拶 『木の葉』と『言の葉』—ごあいさつ—
山 東 功 2
- ・NPO大学出版、もう一つの社会貢献
(1) 序にかえて 創設期の出版10選 足立 泰二 2
- ・第35回 OMUPサロンの報告 4
- ・次回第36回 OMUPサロンのご案内 4
- ・自著を語る(29) 地域変容に対応した
避難行動要支援者のための地区共助計画 生田 英輔 5
- ・新刊書の紹介 6
- ・令和元年スタッフ一覧 6
- ・大阪公立大学共同出版会事務局より／編集後記 6

第14回 NPO 法人大阪公立大学共同出版会総会報告

6月29日(土)午後1時より午後2時まで大阪府立大学B14号棟2階自己研修室において、第14回NPO法人大阪公立大学共同出版会(OMUP)の総会が開催された。総会成立の確認後、足立泰二理事長を議長に選出し、さらに上田純一常務理事と中村治常務理事を議事録署名人に指名して、議事に入った。第一号議案「平成30年度事業報告」では、同年度に、公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会の助成を受けて故・田中長三郎博士の一次資料をアーカイブ化し、ウェブサイト「ミカンにかけた情熱 常世文庫と田中長三郎の足跡」を開設するとともに、紙媒体を通して情報発信するために同名の小冊子を作成したこと、NPO法人「みやざき自然塾」との連携についても強化を図り、成果をOMUPブックレットNo.64として刊行したこと、積極的に出版事業を展開し、15点の出版を行ったことなどが報告され、満場一致で承認された。第二号議案「平成30年度事業決算」は、表に示す通りである。監事より「適法かつ正確である」と署名捺印をいただいていることが報告され、満場一致で承認された。第三号議案「役員等の選任」では、足立泰二理事長が退任し、八木孝司副理事長が理事長に就任すること、その任期を足立泰二現理事長の残任期間である令和2年(2020年)8月7日までとすること、山東功理事と大塚耕司氏がそれぞれ常務理事に就任し、その任期を令和2年(2020年)8月7日までとすることが提案され、満場一致で承認された。第四号議案「業務契約」では、杉本公認会計士事務所との顧問契約、事務局業務の契約、ホームページの維持・管理契約、責任編集業務の委託契約のそれぞれについて、満場一致で承認された。第五号議案「令和元年度事業計画」では、受託出版事業、出版物の受託販売事業、OMUPブッ

クフェアの開催、出版目録の作製と配付、ニュースレターの発行(年間2回)、「読ン得本々」の発行、ホームページの運営、OMUPサロンの開催など、おおむね前年度と同様の事業を展開することが提案され、満場一致で承認された。第六号議案「令和元年度事業予算」では、表に示すような予算が提案され、満場一致で承認された。(文責：中村治)

平成30年度事業決算および令和元年度事業予算書

合計		(単位:円)	
科 目	H30 決算額	R1 予算額	
事業収入			
書籍売上	5,361,333	5,600,000	
出版収入	6,643,759	6,000,000	
著者負担	7,503,619	6,000,000	
大学負担・出版助成等			
寄付金収入	0	0	
入会金収入	100,000	80,000	
その他の収入			
受取利息	45	30	
雑収入	12,438	10,000	
当期収入合計	19,621,194	17,690,030	
売上原価			
期首商品棚卸	737,868	1,161,071	
製作費	9,030,516	7,000,000	
運送・発送費	196,720	205,000	
編集デザイン料	1,216,669	1,000,000	
内部仕入			
期末商品棚卸	-1,161,071	-1,000,000	
管理費			
雑給	3,642,225	3,900,000	
福利厚生費	9,770	10,000	
業務委託費	512,964	500,000	
旅費交通費	609,671	680,000	
通信費	126,946	120,000	
交際費		50,000	
会議費	18,838	33,000	
地代家賃	78,593	100,000	
水道光熱費	27,966	30,000	
著者精算	926,617	900,000	
消耗品費	147,829	200,000	
事務用品費	57,324	50,000	
広告宣伝	12,850	20,000	
支払手数料	63,655	70,000	
雑費	87,604	90,000	
法人税等	748,806	70,000	
当期支出合計	17,092,360	15,189,071	
当期収支差額	2,528,834	2,500,959	
前期繰越収支差額	3,819,439	6,348,273	
次期繰越収支差額	6,348,273	8,849,232	

「木の葉」と「言の葉」 ―ごあいさつ―



山東 功

緑豊かな大学として知られている大阪府立大学も、昔の航空写真を見れば、周囲一面田圃の広がる中に、忽然とコンクリートの新設学舎が現れるようなたずまいであったことが分かる。多くの木々に覆われるようになったのも、たゆまぬ栽植の賜物であろう。先人のご尽力には頭の下がる思いである。私自身、新緑の季節ともなれば、そうした大樹の蔭で繁茂した葉を目にしつつ、一時の憩いを楽しんでいるが、悲しいかな、その大樹が何の木か分からない。「いづれアヤメかカキツバタ」どころか、スギとヒノキの区別もつかない始末である。ただ、ひどいスギ花粉症ながらも、ヒノキでは症状が出ないことから、もっぱら鼻で違いを嗅ぎ分けている。

そんな無粋者でも、キャンパスをうろついていると、何かしら気になる木が見つかるものである。最近では、大きなハート形の葉にインゲンマメのようなさやを付けた大樹が目についた。これまた名前が分からないため、キャンパスの植生に詳しい本学の先生方が作成された資料を基に調べてみると、どうも「アメリカキササゲ」という木らしい。

ハートはさておき、インゲンマメとはまことに恥ずかしい見立てだが、全く知らなかった名前にも興味が引かれ、今度はその言葉に関して本を紐解いてみたくなった。一応、専門が「日本語学」であるため、実情はともあれ、世間では「言葉」に詳しいはずだということになっているからである。あれこれ植物名彙についての辞書を引っ張り出すと、「キササゲ」は漢名の「梓」に該当することが分かった。ただし、「梓弓」の「アズサ」はカバノキ科の「ミズメ（ヨグソミネバリ）」を指すのだそうである。その違いや如何、と意気込んでみたものの、漢名植物の同定など、牧野富太郎博士の研究を見れば、とても素人が手を出せる領域ではない。早々に言葉調査からも退散してしまった。専門も怪しい限りである。

ただ、ふと気になった木の漢名が「梓」であったのも、ひとつの機縁と言えそうである。出版の類語にあたる「上梓」は、昔「梓」の木を版木に用いたことに由来する。日本の場合、版木にはサクラの木が使われることが多かったという。「上桜」であれば、不明を恥じる必要もなかったのだが、そんなボヤキとは別に、この度、大阪公立大学共同出版会とのご縁を頂戴した折、出版にゆかりのある木が目につくとは、何とも不思議な気分でもあった次第である。今後は、八木孝司新理事長をはじめ、植物についても大変造詣の深い理事の諸先生方からご教示を受けつつ、少しでも無粋な生活から脱却を、と夢見ている。これからも宜しく願い申し上げます。

NPO 大学出版、もう一つの社会貢献

(1) 序にかえて 創設期の出版 10 選

前理事長 足立 泰二

大阪公立大学共同出版会（OMUP）を立ち上げたのが 2001 年、爾来 18 年が経過した。その間、組織としては任意団体の 3 年余りの後、特定非営利活動法人（NPO）として 14 年余り、大阪南部に位置する公立大学に所属する教職員と、志を同じくして、学術啓発本を出版しようとする会員も含めて、現在会員 198 人、出版点数は 203 冊以上である。これまでの一点一点には著者、編者の積極的著作活動の積み上げに他ならないのではあるが、それらを支えてきた OMUP の社会貢献も大きい。「OMUP の歩み」を振り返り、今後の展開を願う気持ちを述べ

ることとする。今回は序のつもりで、初期の記憶にとどめておく 10 選に絞って話しておきたい。

1. Adachi・Imanishi・Hoffmann 編著：How to Overcome Breeding Barriers by Means of Plant Biotechnology 2001.3.

OMUP 出版第 1 号である。実は、東京の大手、一般商業出版社との欧米頒布契約も締結していたのであるが、弊会出版第 1 号の試作を兼ねて変更を申し出たところ、あっさり認められ、早期の出版が認められた。装丁にも、地味ながら工夫を加え、この種のモノグラフの大切さが、日本育種学ならびに日本植物細胞分子生物学会員からも相応の評価を受けた。不慣れな本

会事務遂行には「有限会社ダブル・ワークス」（大阪女子大卒業で、学会等協力団体）からご尽力を頂いた。

2. Kyoko Murata 著 Les metamorphoses du pacte diaolique dans l'oeuvre de Balzac（バルザック評論フランスでの博士論文）2003.10.

パリ留学滞在中、指導教官の Nicole Mozet から学位論文を本に完成させるよう推薦を受け、パリの名門出版元クリンシク社と OMUP の両者ロゴ・マークを入れた本となり、欧州での販売契約設定には、クリンシク社が担当した。フランスの学会からは高い評価（書評）を受けた。また、この本の装丁とフランス綴表紙は本文のイメージにぴったりとの評判を得た。ただ、脚注入りの本文校正にはフランス語に不慣れな印刷所ため、著者には多大な労力と時間を費やすご迷惑をお掛けした。

3. 中川昌一著：「ブドウを知ればワインが見える」 2004.3.
長年の研究と教育の寄与の原稿に、子弟の有志が学恩に報いようと企画された本で、美談：追憶がコラムを彩る。表紙本文ページの随所にブドウの模様がアクセントをつけ、ワインの雑誌にも取り上げられるなど、ワインとひととの一大叙事詩を形作った。

4. 植物色素研究会編：植物色素研究法 2004.3.
研究会創立 15 年記念出版として上梓依頼を受け、50 部限定の記念出版特別装丁本も作成した。地道な学会記念出版ながら実験指南書としての工夫も加わり、大人気を博し、ことに若手執筆者の研究展開と教育向上に寄与した。著者の中から後の大学教授、副学長等を輩出した。結果的にアマゾンその他でこの分野でのベストセラーを続けた。

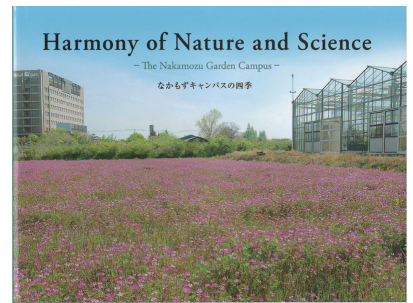
5. 泉 千勢監修・OMEP 日本委員会訳：ヨーロッパの保育と保育者養成 2004.6.

国会の幼児保育と幼児教育行政施策の議論展開にも寄与したと聞く。翻訳権はすべて学会で進めて頂き、出版者としては手間のいらない刊行となった。しかも学会員の買い上げが多かった。執筆者と泉先生の丁寧な校正には頭の下がる思いだった。それにしても次々に出てくる校正ミスには悩まされ、後に OMUP アウトソーシング責任編集に移行した。出版の真髄は著者に寄り添う校正にあり、を実感した。

6. 河内明夫他著：結び目理論と数学研究所の活動 OCAMI シリーズ 4 巻 2007～
大阪市大の誇る数学研究所の国際的に高い存在感があって、OCAMI シリーズで 4 巻までの連続刊行が出来た。その一つ、数学教育への活用についての一冊 Teaching and Learning of Knot Theory in School Mathematics は、発刊 1 年後、Springer Verlag と OMUP の共同出版に発展。世界 6,000 カ所の大学図書館と提携をしている本は OMUP のステータスを向上できたことで、大満足の出版となった。

7. 八木 孝 司 編 著：
Harmony of Nature
and Science
2010.3.

本著は OMUP の企画提案から始まったが、八木孝司新理事長の当時の絶大なご尽力の賜物



で、和英並記の本著は、大阪府立大学来訪者へのアカデミックなスーヴェニアに活用頂いたし、卒業学生にも恰好な思い出として購入を促した。キャンパスの環境整備が進み、逆に自然景観が変化した今となつては、この本も改訂を考えるべきかと思う。出来れば近傍の世界文化遺産「百舌鳥・古市古墳群との融和を目論んだ、学術と文化啓発本の刊行が望まれる。

8. 大西文秀著：「環境容量からみた日本の未来可能性」（2013）「流域圏からみた日本の環境容量」（2013.9.）

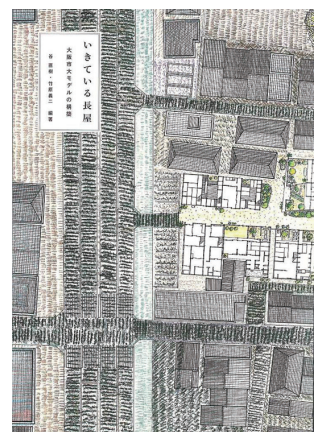
GIS Map を活用した、オール・カラービジュアル図鑑ともいえる、この成果は環境関係学会からも高い評価を受け、とくに科学技術の市民向けエクステンション面での重要性を訴えた本となり、確実な売れ筋を形成した。最終第 3 部作目の「ヒト自然系からの未来警鐘」はこのほど新刊された。

9. Yumi Takagaki 著：De la rhétorique contrastive a la linguistique textuelle L'organisation textuelle du francais et du japonais（日本でのフランス語学習比較論）2011.

科研費による契約出版が採択された本である。フランス・ブルターニュ地方の 2 大学間共同出版社とのコラボ作品となった。著作権取得や、校正は大学出版社間の国際連携に大きな助けとなった。

10. 「いのちを守る都市づくり」
【課題編】（2012.3）および「生きている長屋」（2013.3）

大阪市大生活科学部および研究科教授陣を中心とした、地域社会貢献型プロジェクトの成果本である。数々の出版賞に輝き、OMUP の評価にも大いに貢献。両書は編集長の献身的お世話を多とするものである。



今後数回に分けて、1）全方位サイエンス（人文、社会、自然科学）の社会へのエクステンション、2）地域特性、文化多様性の認識と昂揚、3）国際的視野を見据えた出版。4）豊かな人間性創設への多面的努力等について書き下ろすことにする。

第 35 回 OMUP サロンの報告

第 35 回 OMUP サロンが「JUNK 難波トークセッション」とのジョイントとして令和元年 5 月 28 日(火) 16 時から 18 時 ジュンク堂書店難波店 3 階特設会場で開催されました。演者は、OMUP が最近発行した「ロマンスという言語 - フランス語は、スペイン語は、イタリア語は、いかに生まれたか」の著者である小林標大阪市立大学名誉教授で、西洋史がご専門である大黒俊二大阪市立大学名誉教授との対談形式でロマンス語の成立過程やそれを研究する魅力などのお話しでした。また御執筆にあたっての工夫や御苦労話についても語られました。参加者は OMUP 会員と一般を含め 21 名でした。ジュンク堂書店難波店店長福嶋聡氏の御挨拶に引き続き、足立泰二 OMUP 理事長が開会の辞を述べサロンが始まりました。

私達には耳慣れないロマンス語とは、一定の言語のグループを示す言語学のための用語で、そのグループとはラテン語を母胎としてそこから各地域で異なった変化を蒙り、異なった発展を遂げた言語群を指していること、その中には、スペイン語、ポルトガル語、フランス語、イタリア語、ルーマニア語のように一国家の言語でありかつ国境外にも話者がいる大言語もあれば、カタルーニャ語のように大言語とは言えずともスペイン第二の都市バルセロナを中心とした地域における主言語群となっている言語もあることなどを伺うことができました。それから何故それに「ロマンス」という名称がついているかについてもお話があり、これは

一都市の名前から巨大国家の名前となったローマに由来していること、「ロマンス」は英語の形容詞 romance であり、英語はロマンス語ではないが、フランス語風に変化したラテン語が英語に取り入れられ、そこでまた独特の変化を遂げた単語であると説明できるとのことでした。参加者は時の経つのも忘れて対談に聞き入りました。会場からの質問にも時間を割いて詳しくお答えいただきました。最後に上田純一 OMUP 常務理事のお礼の言葉で閉会となりました。その後、同会場にて小林標先生のサイン会があり、また、時間を許す方々を対象に会場近くのイタリアンカフェにて小林標先生、大黒俊二先生とお話しする機会が設けられました。参加者は先生方を囲み楽しいひと時を過ごすことができ、たいへん有意義なアフターサロンとなりました。

(文責：上田純一)



次回 第 36 回 OMUP サロンのご案内

『活断層と私たちの暮らし —その調べ方とつきあい方—』

※次回は大阪府立大学地域連携室主催第 56 回アカデミックカフェとのジョイントとして行われます。

講師：伊藤康人先生

(大阪府立大学大学院理学系研究科 教授)

日時：2019 年 8 月 23 日(金) PM 6:30 ~ PM 8:30

(受付 PM 6:00 ~)

場所：まちライブラリー@大阪府立大学

住所：大阪市浪速区敷津東 2-1-41 南海なんば第 1 ビル
大阪府立大学 I-site なんば 3 階



定員：30 名(定員になり次第、締め切り)

会費：無料

持ち物：テーマに沿った本

テーマ：「自然災害」「防災」「復興」「活断層」「避難所」

これらのテーマに沿ってなくてもお勧めの本があればお持ちください。本を用いた自己紹介の時間があります。皆様に寄贈していただいた本を集めてまちライブラリー内にコーナーを作りますが、寄贈は任意です。

申し込み方法：E-mail で以下の内容を記載してお申し込み下さい。お 1 人 1 通の申し込みが必要です。

【E-mail】acafe56@ao.osakafu-u.ac.jp

(※半角英数/携帯メール不可)(今回の OMUP サロン・アカデミックカフェ専用アドレス)

【件名】第 56 回活断層

【本文】①氏名(フリガナ) ②携帯番号 ③この講座を知ったきっかけ ④住所(市町村まで)

問い合わせ先：大阪公立大学共同出版会(OMUP)

〒599-8531 大阪府堺市中区学園町 1-1 大阪府立大学内

Tel : 072-251-6533

Fax : 072-254-9539

E-mail : omup@hs.osakafu-u.ac.jp



地域変容に対応した 避難行動要支援者のための地区共助計画

宮野 道雄・生田 英輔 編著

B5判、並製本、140頁 1,200円＋税

ISBN978-4-907209-97-1 C3036

本書を執筆・編集中心であった2018年は1月の草津白根山噴火、2月の福井豪雪、6月の大阪

北部地震、7月の西日本豪雨、9月の北海道胆振東部地震、そして7月から9月にかけての一連の台風等、多くの災害が我が国を襲った1年でした。本書の著者達も現在進行形で発生する災害を直視しながら、避難行動要支援者の命を守る為に行けるのかを、各々の立場で考えていたと思います。

本書のテーマとなった「避難行動要支援者」は2013年の災害対策基本法の改正によって定着した言葉です。しかしながら、その概念は1980年代に遡ることができ、災害弱者、災害時要援護者、要配慮者といった表現で対象が拡大あるいは明確にされ、同時に全国の地域で、このような方たちの命を守る為に様々な努力が続けられてきました。

そして、2011年に東日本大震災が発生しました。いくつかの地域では平常時からの共助体制が実り、命が救われましたが、被災地全体で見ると、過去の災害と同様に高齢者や障がい者の死亡率は顕著に高かったのです。そこで、これまでの取り組みをより強化する為に「避難行動要支援者」は法律で明確に位置づけられ、各自治体では避難行動要支援者支援の取り組みが始まりました。地域によって差はあるものの要支援者名簿の整備は進捗しているようですが、やはり課題となるのは発災時に要支援者を支援する支援者の不足です。今後の人口構成を考えると、支援者不足の傾向はさらに進行するでしょう。

一方、近年の地域防災の動きの中で特徴的なものは、前述した災害対策基本法の改正で取り入れられた「地区防災計画制度」です。この制度は地域住民が自発的に自らの住む地域の防災に取り組むための計画を作り、それに合わせて準備、訓練、人材育成等を進めていくという制度です。もちろん地域住民だけではなく、多様な主体が関わります。

これらの動きを踏まえると、本書のテーマとなった「地区共助計画」という発想に至ります。すなわち、地区防災を担う多

様な主体が共助の為にプラットフォームを構成し、避難行動要支援者の支援も含めて計画的に地域防災に取り組むという方向性です。多様な主体には地域の学校や福祉施設、各種行政機関、企業等が想定されます。これらの主体は、従来から各々の立場で防災に取り組んできたと思いますが、避難行動要支援者の支援と共助の為に協働することによって、1+1が2ではなく3, 4になるという発想です。加えて、避難行動要支援者の支援及び共助の計画を作るには、防災全般の知識と対策が必要ということです。当たり前のことを言っているようですが、行政機関でも要支援者対策は福祉部局、災害対策は防災部局といったことがよくあり、これは地域にもそのまま当てはまる場合があります。地域住民と多様な主体が地域防災を包括的に考え、計画を作っていくことが本当の意味での避難行動要支援者の命を守る共助に繋がるのではないのでしょうか。

このような議論の末、2015年に設立された大阪市立大学都市防災教育研究センター（略称：CERD）のメンバーを中心とする研究チームは2016年にJSPS科研費を獲得し、調査・研究をスタートさせました。研究成果は本書にあります。従来の避難行動要支援者関連の書籍とは少し趣の違う内容と思います。避難行動要支援者の共助に携わる方、行政機関の方などに、是非とも抑えておいていただきたい事項が多く含まれますので、地域での防災活動にお役立ていただければと思います。手前味噌ではありますが、CERDという組織は我々研究者にとっても画期的な体制となっています。研究者は時には視野が狭くなってしまいがちですが、CERDは総合大学である大阪市立大学の強みを生かし、多様な分野の研究者が揃っています。学外の方に「コミュニティは大事」と言う前に、まずは学内で研究者のコミュニティを実現させようとしています。CERDのような新たな組織に参画し、運営していくことは苦勞も多いですが、本書のような研究を進めるにはこのような組織が必須だと思います。本書をきっかけに、地区共助に取り組む個人・組織の連携・協働が進展すれば幸甚です。

（文責：生田英輔）

新刊書の紹介



ロマンスという言語
—フランス語は、スペイン語は、イタリア語は、いかに生まれたか—

小林 標 著

A5判、並製本、490頁

4,500円＋税

ISBN978-4-907209-95-7 C3087



**しなやかにしたたかに
システム思考**

辻 洋 著

A5判、上製本、124頁

1,000円＋税

ISBN978-4-909933-03-4 C0037



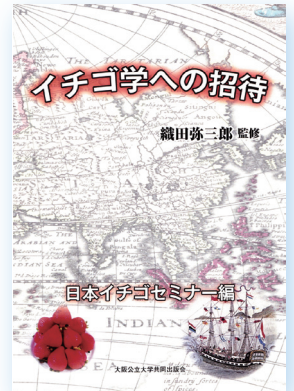
**日本における
生殖医療の最適化**

浅井 美智子 著

A5判、並製本、140頁

1,800円＋税

ISBN978-4-909933-00-3 C3036



イチゴ学への招待

日本イチゴセミナー 編
織田 弥三郎 監修

A5判、並製本、118頁

2,500円＋税

ISBN978-4-907209-98-8 C3061

令和元年 スタッフ一覧

1. 理事

八木 孝司	理事長
上田 純一	常務理事（総括）
中村 治	常務理事（財務総括）
山東 功	常務理事（編集・企画）
大塚 耕司	常務理事（編集・企画）
金井 一弘	常務理事（編集）
内藤 裕義	常務理事
中井 孝章	常務理事
平澤 栄次	常務理事
難波 利幸	理事
足立 泰二	理事（顧問）
小股 憲明	理事（顧問）
三田 朝義	理事（顧問）

2. 監事

上野山 達哉
生田 英輔

3. 事務

児玉 倫子

4. 編集

川上 直子
河村 俊彦
中村 奈々

大阪公立大学共同出版会事務局より

大阪公立大学共同出版会は、大阪市立大学および大阪府立大学における教職員と、本出版会の趣旨に賛同する者の自主的な参加によって成り立っているNPO法人です。本会は、研究・教育成果の発表を助成し、また民間出版社が採算上刊行を引き受けられないような優良学術図書の刊行頒布の事業を行い、学術の振興および文化の発展に寄与することを目的とし、次のような事業を行っています。

- (1) 会員の教科書および学術研究報告の刊行頒布
- (2) 会員の学術図書の刊行頒布
- (3) 会員のデータベース、ソフト等電子出版物の刊行頒布
- (4) その他前条の目的を達成するために必要な事業

参加を希望される方は、下記事務局へお問い合わせください。

〒599-8531 大阪府堺市中区学園町1-1

大阪府立大学中百舌鳥キャンパス内

NPO法人大阪公立大学共同出版会（OMUP）事務局

電話：072-251-6533 ファクシミリ：072-254-9539

e-mail: omup@hs.osakafu-u.ac.jp URL: http://www.omup.jp/

入会金：一口一万円（終身会費）

振込先：三菱東京UFJ銀行 中もず支店 普通3976510

編集後記

今年も無事に総会を終えることができました。これも会員の皆様のお蔭であると心から感謝申し上げます。八木新理事長の下、これからも皆様の役に立てるよう、日々精進してまいりますのでよろしくお願いいたします。

（文責：児玉倫子）